

令和6年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立河合小学校）				学校番号	094	【様式】
目指す学校像		笑顔があふれる学校 きれいな学校 安全な学校 信頼される学校				
重点目標	1 「できた」「わかった」喜びを味わえる授業実践と地域の教育資源を生かした教育の推進				※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。	
	2 安全・安心な学校づくりに向け、豊かな心と健やかな体の育成と設備・施設の適切な管理					
	3 学校運営協議会と協働し、地域・保護者と一体となった学校運営の推進					
	4 教職員一人ひとりの業務遂行能力向上を図る研修と環境の充実					

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 評 価								
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度		次年度への課題と改善策
1	(現状) ○令和5年度全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均とほぼ同様の結果である。 ○さいたま市学習状況調査の生活習慣に関する調査の質問「国語の授業内容はよく分かりますか。」で肯定的な回答の割合が市よりも下回っている。 ○日頃の学習の様子を見ると、基礎的・基本的な事項が身につけていない児童が多い。 (課題) ○さいたま市学習状況調査の結果分析より、国語は「話す・聞く」「書く」力、記述により自分の考えを表現する力、算数は基礎基本の中で「数と計算」の力の向上が必要である。 ○国語や算数において、基礎的・基本的事項を確実に身に付けていくことが課題である。	「できた」「わかった」喜びを味わえる授業実践	①スタディサブリ、ドリルパークの活用や朝学習も充実により、個別最適な学習スタイルを進め、学力向上、習熟へとつなげる。 ②家庭学習の行い方を定着させ、発達段階に応じ、自分で学習する習慣を身に付けさせる。 ③校務用端末を活用し担任が個々の成績データベース、スクールダッシュボード等を活用することで具体的な学力改善策を個人面談等で保護者に情報提供する。 ④タブレット端末の使用を推進し、プレゼンテーション資料を作成・活用した授業を実践したり、プログラミング的思考力を育む STEAMS TIME で体験活動を行ったりする。 ⑤算数の授業を中心に教員を複数配置し、少人数指導または個別指導を実施する。	①スタディサブリ、ドリルパークを授業や家庭学習で活用できたか。 ②家庭学習を各学年で定着することができたか。 ③校務用端末で児童の成績管理を適切に行い、個人面談や通知表等で課題や具体的な方策を伝えることができたか。 ④年間に1回以上、タブレット端末を使った授業（児童が発表方法で使用する）を公開したか。 ⑤算数科における少人数指導、チームティーチングにおける少人数指導、チームティーチングを実施し、知識・技能に関する正答率を70％以上とする。	①全校児童がスタディサブリ、ドリルパークを授業で使用し、長期休業中や日々の家庭学習でも宿題配信等を実施するなど活用した。 ②家庭学習の行い方を児童と保護者に周知し、学年の実態に応じ自主的な学習の実践へとつなげることができた。 ③児童の成績について、教科担任を含めた教職員全員が校務用端末で適切に管理するとともに、スクールダッシュボードの活用状況も併せ、個人面談や通知表で具体的な方策を伝えた。 ④全教員が年に1回以上、タブレット端末により児童の考えの共有を行う活動を取り入れた授業を実践した。 ⑤算数科における少人数指導、チームティーチングを各学年で実施し、充実した指導を行った。知識・技能に関する正答率は71％であった。	A	①児童のさらなる学力の向上のために基礎的な内容の定着を徹底する。 【方策】 教科担任制を生かした時間割の工夫や SA の活用により複数体制での算数の授業の実施で基礎的な理解の向上を目指す。 ②授業での ICT のより効果的な活用により児童の学習意欲や学習理解度の向上を目指し、個別最適化を図る。 【方策】 教職員による学校全体の研修の充実と研究授業の相互参観による指導法の共有化、授業力向上を図る。	教科担任制はよい取組である。少人数指導、ティームティーチングの実施が有効であると考えられるので、継続してほしい。 基礎基本の定着を目指すとともに、定着できない児童への手立てを考える必要がある。 ICTを活用した教育が進化充実しており、教職員の努力と児童の意欲が感じられる。そこに自主学習の取組がつながっていくこともよかった。 早く終わった児童がタブレットを使ってさらに学習することがよい。 スクールダッシュボードの更なる活用が楽しみである。 体験的な学習が多く取り入れられているのは理解力へとつながり有効である。 児童自らが自己の成長を見られる方法や場面設定等の工夫があるとよい。
		地域教育資源を生かした教育の推進	①総合的な学習の時間や行事等において体験活動を重視し、教科横断的に探究活動を実施する。また、縦割り活動等異学年交流を通して思いやりの心や規範意識を高める。	①学校評価（保護者）「学校では～体験したりする授業を行っている」項目の肯定的な回答の割合が80％以上となったか。	①学校評価（保護者）「学校では～体験したりする授業を行っている」項目の肯定的な回答の割合が86％であった。	A	①地域教育力を生かし、児童の教育の充実を図る。 【方策】学習内容にあった必要な学習ボランティアの更なる活用を計画する。	
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査の結果の生活習慣に関する調査の「人が困っているときは進んで助けている」や「学校に行くのは楽しい」で平均を大きく上回っている。 ○昨年度の保護者による学校評価で「学校は児童の事故防止に努め、施設・設備の安全に配慮している」「児童が落ち着いて学習・生活できる環境整備がなされている」で肯定的な回答が、88％であった。 (課題) ○今年度は特別支援学級が設置されていないが、特別な配慮を要する児童は多数いるので、さらなる個別支援・個に応じた指導が必要である。 ○施設・設備の老朽化が進んでいるため、計画的な修繕・保守が必要である。	豊かな心と健やかな体の育成	①生徒指導・教育相談部会で情報を共有し、個別の対応方法を共通理解し、配慮を要する児童へ適切に対応する。また、保護者への対応も同時に行うために「すこやか相談・教育相談」を毎月実施する。また、個人面談を春と秋の2回実施に変更する。 ②「心を潤す4つの言葉：心を元気にする4つの言葉」を意識させ、規律ある態度を育成する。 ③縦割り活動を集会以外にも清掃等様々な場面で機能させ、児童同士の深いかかわりを構築する。 ④食育を推進し、地元食材を使った給食（シェフ給食）の提供をする。	①学校評価（保護者）「学校では、児童の悩みやトラブル等に適切に対応している」項目で肯定的な回答の割合が88％以上であったか。 ②学校評価（児童）「進んであいさつをしている」項目の肯定的な回答の割合が90％以上であったか。 ③学校評価（児童）「友達を思いやり仲良く助け合っている」項目の肯定的な回答の割合が90％以上であったか。 ④給食回数の1/3で地元食材を提供できたか。	①学校評価（保護者）「学校では、児童の悩みやトラブル等に適切に対応している」項目で肯定的な回答の割合が86％であった。 ②学校評価（児童）「進んであいさつをしている」項目で肯定的な回答の割合が93％であった。 ③学校評価（児童）「友達を思いやり仲良く助け合っている」項目で肯定的な回答の割合が91％であった。 ④給食回数の1／2以上の回数分で地元食材を提供した。	A	①河合小の約束の徹底や児童同士のより良い関係の構築を図る。 【方策】 あいさつ運動の充実（多様な方法での実施）と縦割り活動の活発化により全校児童のよりよい関係作りを更に進める。 ②個に応じた対応や配慮を要する児童を大切にする指導の充実を図る。 【方策】個別支援の対応ができる組織作りと組織の活用、スクールダッシュボードの活用研修を行い、検証していく。	思いやりの心が育っているように思えるが、見えにくい部分なので大人が児童をよく観察し気づいてあげる努力も必要である。 「進んであいさつをしている」「友達を思いやり、仲良く助け合っている」の評価が高いことから豊かな心と健やかな体の育成が向上していると考える。あいさつをしてくれている児童が増えていると感じる。校外でもできるという。 限られた予算の中で、施設や設備の修繕が工夫されて行われており、児童の学習環境が良好に保たれている。 河合地区においては、河合小学校が物理的にも精神的にも地域のハブとなっており、オール河合地区で学校施設を維持・活用していくことが大事だと感じている。
		適切な設備・施設の管理	①安全点検の確実な実施と修繕等の即時対応により施設の維持管理をする。 ②清掃活動を充実させ廊下や教室に余計な物がない状態やゴミのないきれいな学校を作る。職員室内の物や個人情報の整理整頓を行う。 ③環境教育の一環として校内を花でいっぱいの明るい環境にし、豊かな心を醸成する。 ④理科・家庭科・体育の教材・教具を中心に安全安心で最新のものに更新する。	①学校評価（保護者）「学校では～施設・設備の安全に配慮している」項目の肯定的な回答の割合が85％以上となったか。 ②教職員による評価「清掃活動を徹底し、清潔で整頓された教育環境を維持している」項目の肯定的な回答の割合が80％以上となったか。 ③季節ごとに校内の花草が植え替えられているか。 ④理科・家庭科・体育の教材・教具が最新ののものになっているか。	①学校評価（保護者）「学校では～施設・設備の安全に配慮している」項目で肯定的な回答の割合が87％であった。 ②教職員による評価「清掃活動を徹底し、清潔で整頓された教育環境を維持している」項目の肯定的な回答の割合が83％であった。 ③学校予算や助成金、花の配付イベントを活用し、季節ごとに校内の花を植え替えたり、整美したりし、美しく明るい環境を作れた。 ④理科、体育の教材・教具を優先的に購入し、児童が学習しやすい環境づくりを行った。	A	①児童が安心して学習できる環境の整備・維持を進める。 【方策】 施設設備の点検を適切に行い、修繕等の対応、市教委への依頼を通して教育環境を適宜整備していく。	
3	(現状) ○学校運営協議会において、本校の重点指導項目（あいさつの励行、規範意識の醸成等）を共有し、本年度の学校経営方針に取り入れた。 (課題) ○学校運営協議会で共有した指導項目を地域・家庭等に周知したため、今後はさらなる共通理解を深め、協働できるよう取り組んでいく。 ○地域の意見に偏ってしまうことのないよう、学校運営協議会に保護者代表や同じ中学校区の校長を委員に入れ、意見を取り入れる。 ○学校運営協議会の熟議の進行の仕方を工夫し、より闊達な意見交換ができるようにする。	重点指導項目の周知と継続的な教育活動の推進	①委員を再考し、運営協議会を年3回開催し、熟議を元に協働活動を行う。 第1回 地域で育てたい力等について 第2回 育てたい力の実現に向けた方策について 第3回 基本方針の確認と次年度の学校経営方針案の仮承認 ②学校だより等をHPやスクリレへの配信により確実な情報共有を行い、行事を直接公開することや動画や写真などで公開することで積極的な情報発信をする。情報共有や情報発信は学校安心メールや HP、スクリレ、teams、forms 等を効果的に活用する。	①学校運営協議会を年3回実施し、委員とともに学校運営について十分な協議ができたか、また協働に向けた取組が行えたか。 ②学校評価（保護者）「各種たよりやホームページ、学校安心メール等で積極的に情報を提供している」項目の肯定的な回答の割合が85％以上となったか。	①学校運営協議会を年3回実施し、昨年度のテーマを引き継ぎ、今年度は児童と大人が話し合う機会を設定することについて検討し、トランボリン体験学習や地区体育祭への参加呼びかけ、運営協議会への児童参加等協働活動を行った。 ②学校評価（保護者）「各種たよりやホームページ、学校安心メール等で積極的に情報を提供している」項目で肯定的な回答の割合が92％であった。昨年同様配信アプリ「スクリレ」の活用により情報の配信を活発に行った。児童の活動の様子をHPに掲載したり、学校保健委員会や修学旅行説明会を動画による配信を行ったり、Forms によるアンケートを活用したりとデジタルを活用した情報発信を積極的に行った。	A	①地域、家庭との連携を強化し、河合地区全体で児童を育成していく。 【方策】 学校運営協議会からの情報発信により地域による児童への教育姿勢の共有化を図る。 ②学校情報の更なる発信を進めていく。 【方策】 情報のデジタル化を進めるとともに発信手段や発信内容の選択により効果を高める。	思いやりの心が育っているように思えるが、見えにくい部分なので大人が児童をよく観察し気づいてあげる努力も必要である。 「進んであいさつをしている」「友達を思いやり、仲良く助け合っている」の評価が高いことから豊かな心と健やかな体の育成が向上していると考える。あいさつをしてくれている児童が増えていると感じる。校外でもできるという。 限られた予算の中で、施設や設備の修繕が工夫されて行われており、児童の学習環境が良好に保たれている。 河合地区においては、河合小学校が物理的にも精神的にも地域のハブとなっており、オール河合地区で学校施設を維持・活用していくことが大事だと感じている。
		教職員一人ひとりが職務遂行能力向上を図る研修と環境の充実	①「学びの指標」アンケート項目因子を意識した授業を実施し、教員一人ひとりに目標を設定させ、各自で振り返りに生かす。 ②河合小スタンダード2024版を再検討し、よりよい教職員関係の構築と共通行動による全職員による共通指導を行う。 ③エバンジェリストを中心に ICT 活用の研修を充実させ、個別最適な学びによる授業を1人1授業実施する。またその研修を授業実践及び担当業務に生かす。	①「学びの指標」アンケートの一人ひとりに合わせた目標が1回目より向上しているか。 ②教職員による評価「共通理解を心がけ、指導している」項目の肯定的な回答の割合が80％以上となったか。 ③教職員による評価「研究授業を通して、指導力が向上した」項目の肯定的な回答の割合が80％以上となったか。	①「学びの指標」アンケートでは、ほぼ全職員が1回目より2回目の方が数値の向上があった。 ②教職員による評価「共通理解を心がけ、指導している」項目の肯定的な回答の割合が86％であった。共通理解事項を全教職員が理解し、指導にあたれている。 ③教職員による評価「研究授業を通して、指導力が向上した」項目の肯定的な回答の割合が78％であった。研修で授業中活用できる実践的な ICT 使用法を学び、授業で生かすことができている。	B	①授業での ICT のより効果的な活用により児童の学習意欲や学習理解度の向上を目指す。 【方策】 教職員による学校全体の研修の充実と全職員の研究授業実施、相互参観による授業力向上を図る。	
4	(現状) ○教職員一人ひとりが ICT を研修、活用し業務を効率化、時間短縮化ができるようになってきた。 ○日課や学校行事の見直しを行ってきたことで、ゆとりをもった教育活動を計画できている。 (課題) ○教職員数が少なく、一人ひとりが担当する校務分掌の数が多いので、更なる業務の効率化を行い、教材研究の時間を確保することが課題である。	教職員一人ひとりが職務遂行能力向上を図る研修と環境の充実	①「学びの指標」アンケート項目因子を意識した授業を実施し、教員一人ひとりに目標を設定させ、各自で振り返りに生かす。 ②河合小スタンダード2024版を再検討し、よりよい教職員関係の構築と共通行動による全職員による共通指導を行う。 ③エバンジェリストを中心に ICT 活用の研修を充実させ、個別最適な学びによる授業を1人1授業実施する。またその研修を授業実践及び担当業務に生かす。	①「学びの指標」アンケートの一人ひとりに合わせた目標が1回目より向上しているか。 ②教職員による評価「共通理解を心がけ、指導している」項目の肯定的な回答の割合が80％以上となったか。 ③教職員による評価「研究授業を通して、指導力が向上した」項目の肯定的な回答の割合が80％以上となったか。	①「学びの指標」アンケートでは、ほぼ全職員が1回目より2回目の方が数値の向上があった。 ②教職員による評価「共通理解を心がけ、指導している」項目の肯定的な回答の割合が86％であった。共通理解事項を全教職員が理解し、指導にあたれている。 ③教職員による評価「研究授業を通して、指導力が向上した」項目の肯定的な回答の割合が78％であった。研修で授業中活用できる実践的な ICT 使用法を学び、授業で生かすことができている。	B	①授業での ICT のより効果的な活用により児童の学習意欲や学習理解度の向上を目指す。 【方策】 教職員による学校全体の研修の充実と全職員の研究授業実施、相互参観による授業力向上を図る。	デジタルを活用し、積極的に情報提供と公務の効率化されている。ICTの活用で教職員の負担が減っている。教職員の職務遂行能力向上を図るには、研究授業を通して指導力を向上させることが必要なので引き続き行ってほしい。小規模校の良さを活かした特色ある学校づくりができているのは教職員の努力の賜物であると思う。一方で、今後少子化が進み、河合地区での運動・文化の実施環境が学校教育・学校体育だけになってしまうことを懸念している。近隣の小学校や地域のスポーツクラブ、文化団体などとPTAを含めた連携で中長期的な視点で何かできないかを感じる。